

氏名	目 瀬 守 男 め せ もり お
学位の種類	農 学 博 士
学位記番号	論 農 博 第 304 号
学位授与の日付	昭 和 46 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	わが国ぶどう作の経営経済的研究 —外部経済条件の変化に対するぶどう作経営の経営経済的 適応過程のメカニズム—

論文調査委員 (主査) 教授 神崎博愛 教授 貝原基介 教授 上村恵一

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は第1部において全国的に露地ぶどう作を、第2部において岡山県での温室ぶどう作をとりあつかい2部13章からなっている。

その内容は明治以降100年間のぶどう作の長期的外部経済条件への適応過程を歴史的に分析した分野と経営経済的現状分析とからなり、とくにそれらの分析を経営規模、集約度および経営組織論的に集中的に取扱っている。すなわち歴史的な分析では明治以降最近に至るまでの期間において外部経済条件の変化がぶどう作の経営組織、面積規模、品種、栽培法組織および集約度におよぼした影響を追求し、諸種の文献、統計資料および各地の実態調査資料を駆使してぶどう作経営がどのように適応し発展してきたかを導入期、成長期、成熟期の三段階にわけて明確にしている。

現状分析においては、ぶどう作の経営的、技術的特質を他の果樹作部門との比較を通じて明確にし、さらに各種立地条件の下でのぶどう作の適正規模、適正品種および栽培法組織を明らかにしている。

その過程において適正規模を決定する技術的阻害条件を追求し、また実際の経営が平均規模を小さくし、平均品種、栽培法組織をいわゆる適正品種、栽培法より異なる方向へ発展させている経済的阻害条件に及んでいる。

最後に第1部および第2部を通じての外部経済条件自体の変化方向、それに対応する経営の適応方向に対する予測を試論として展開している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

わが国のぶどう作については、各分野からの研究がなされているが、明治以降最近に至る農業経営の展開として、一貫して総合的にすすめられたものはなかった。

著者はぶどう作を一つの農業経営部門としてとらえ、外部的経済条件の変化に対応した経営組織の発展過程として綿密に検討し、多くの知見を得ている。

詳細な資料に基づく著者の分析的研究は、わが国ぶどう作の発展において雇用労働に依存した大規模ぶどう作専業経営が衰退し、外部的経済条件および技術の進歩、とくに新しい品種の導入育成とともに高級品質化、成熟出荷の時期的移動分散化を通じて比較的小面積のぶどう作部門にいっそう多くの家族労働を没入する傾向をもって、農業経営所得を増大してきたことを実証した。

著者はぶどう作の温室経営に対しても同じ原理によって解明されることを示し、しかもわが国温室ぶどう作は露地ぶどう作にくらべて発展類型上、なお成熟期に至らず、狭い特産地を形成している事実を経営理論的に考察し、実証的に明らかにした。

本論文はぶどう作経営の発展について農業経営規模論ならびに集約度論として解明し、多くの知見を得ているばかりでなる、わが国ぶどう作の採来に対する経営発展の方向についても予測を与え、農業経営学ならびにわが国ぶどう作経営の進歩に貢献するところが大きい。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。